

# 「第13回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

令和3年12月

産業日本語研究会世話人会

代表：井佐原 均	(追手門学院大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(東京大学)
隅田 英一郎	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
李 在鎬	(早稲田大学)
長部 喜幸	(日本特許情報機構)

開催趣旨：

**グローバル化が進む中での産業日本語**

**～様々な日本語利用者間のコミュニケーション～**

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい日本語（「産業日本語」）のあり方を研究しています。この「産業日本語」の研究は、明瞭な日本語文の作成、高品質な翻訳文の作成コスト低減などにつながるものです。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、オンライン会議ツールやVR技術等のデジタルツールの技術進歩が加速し、遠隔での技術指導・遠隔学習が可能となってきています。

企業では海外生産や国内における外国人労働者の雇用等、グローバル化が進んでいる中で、研修・技術指導など対面で行っていたコミュニケーションが、オンライン会議ツールやVR技術等を用いたコミュニケーションへと切り替わって行くことが想定されます。

このような背景のもと、今回のシンポジウムでは、「グローバル化が進む中での産業日本語」をテーマとし、様々な日本語利用者間のコミュニケーションの変化に向けて、産業日本語の未来について考える上での最新の知見やトピックス等を広くご紹介いただきます。本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になることを期待しております。

産業界、学术界などからの、多くの皆さまのシンポジウムへのご参加をお待ちしております。